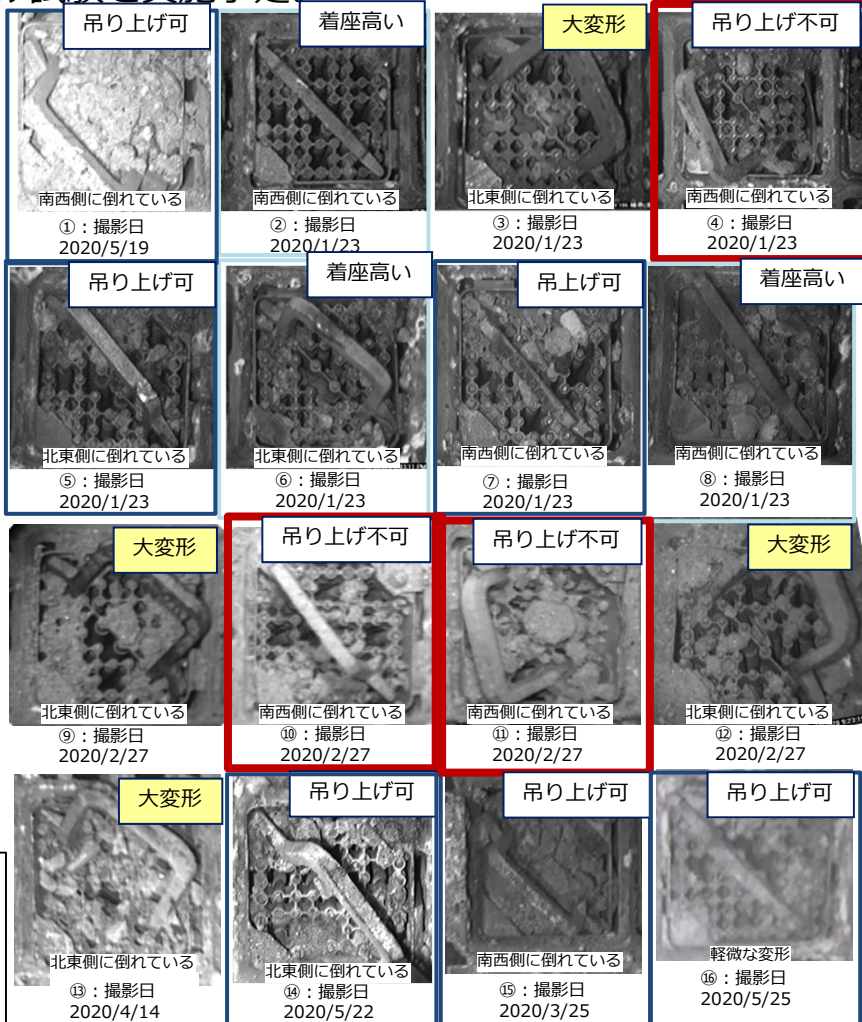
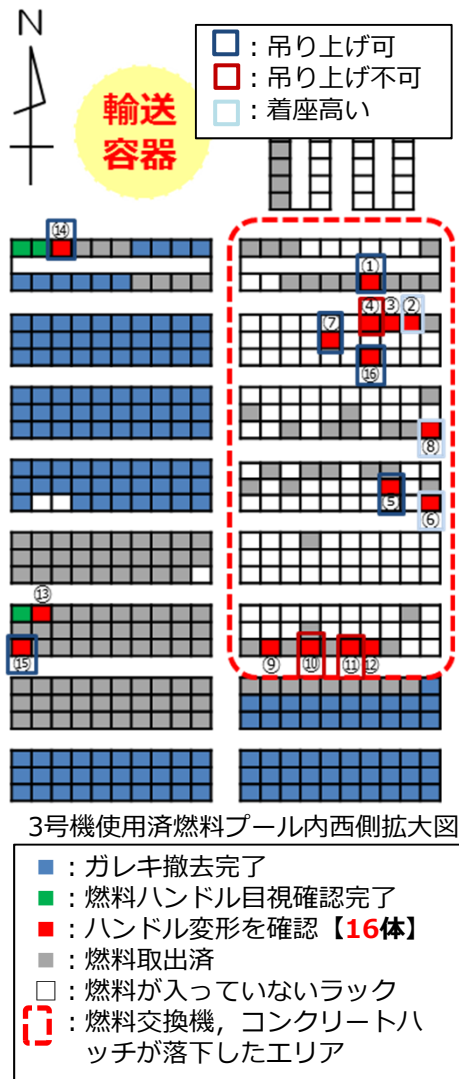


- 3号機使用済燃料プールで確認されているハンドル変形燃料については、2020年5月21～22日および8月24日に吊り上げ試験を実施しています。ハンドル変形燃料全16体のうち、通常の掴み具で取扱い可能な12体を対象に試験を実施し、9体がハンドル変形燃料の規定荷重700kg以内で吊り上げ可能であることを確認しています。
- また、第26回目分の燃料装填作業(2020年6月19日)にて、ハンドル変形がない燃料1体について、規定荷重1,000kg以内で吊り上げできないことを確認しています。
- その後、ハンドル変形燃料の吊り上げ荷重について、模擬体を用いた荷重見直し試験を実施し、700kgから1,000kgへの見直しが可能であることを確認しました。また、吊り上げができない燃料4体について、小ガレキ撤去ツールを用いて燃料ラック上部にある細かなガレキの撤去を進めてまいりました。
- 明日(10月23日)より、上記燃料4体を対象に、3号機使用済燃料プールにおいて燃料吊り上げ試験を実施します。試験では燃料ラックから約10数cm吊り上げ、荷重を確認後に戻す予定です。
- なお規定荷重1,000kgで吊り上がらない場合においても、ラックとの隙間の状態を確認のうえ、燃料取り出し作業の空き時間を利用し、改めて小ガレキ撤去ツールを適用し、再吊上げを実施する予定です。(作業進捗を見ながら日程は調整)

【参考】ハンドル変形燃料の内訳

- ハンドル変形燃料16体のうち、現時点で吊り上げ可能が確認できたハンドル変形燃料は9体。
 - 今回の吊り上げ試験の対象は、下記の赤枠の燃料3体。
 - 既存燃料取扱機掴み具の把持角度を超過している可能性のあるハンドル変形燃料は4体（**区分C分**）。
- 2020年12月頃に吊り上げ試験を実施予定。



ハンドル変形燃料取扱い区分

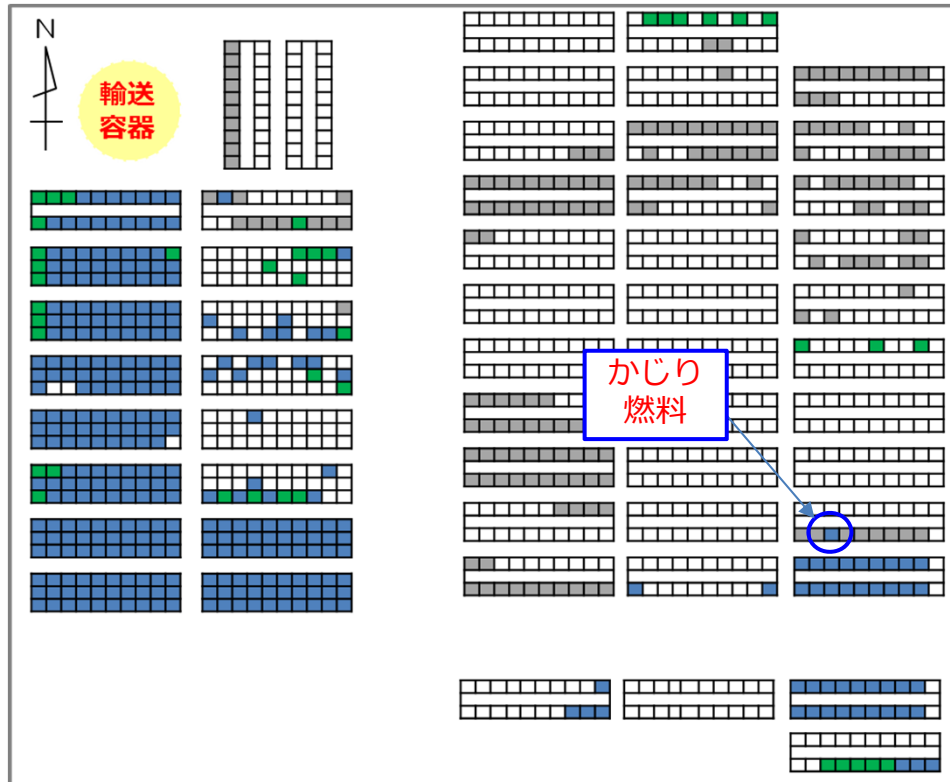
N o.	型式	ITVによる推定曲がり角度	変形方向	取扱い区分※1
①	STEP2	約10°	反CF側	A
②	9×9A	約10°	反CF側	A
③	9×9A	約40°	CF側	C
④	9×9A	約40°※2	反CF側	B
⑤	9×9A	<10°	CF側	A
⑥	9×9A	約10°	CF側	A
⑦	9×9A	約10°	反CF側	A
⑧	9×9A	約20°	反CF側	A
⑨	9×9A	約40°	CF側	C
⑩	9×9A	約10°	反CF側	B
⑪	9×9A	約60°※2	反CF側	B
⑫	9×9A	約60°	CF側	C
⑬	9×9A	約40°	CF側	C
⑭	9×9A	約20°	CF側	B
⑮	STEP2	<10°	反CF側	A
⑯	9×9A	<10°	-	A

※取扱い区分	A	B	C
収納缶	小	大	
掴み具	既存		大変形用

※1: ハンドルが北東側に倒れている場合は、チャンネルファスナが掴み具と干渉するため、把持可能な角度が小さい。
 ※2: 吊り上げ試験時に、ハンドルが数度程度曲げ戻ったことを確認している。

【参考】 ハンドル変形がない燃料 1 体について

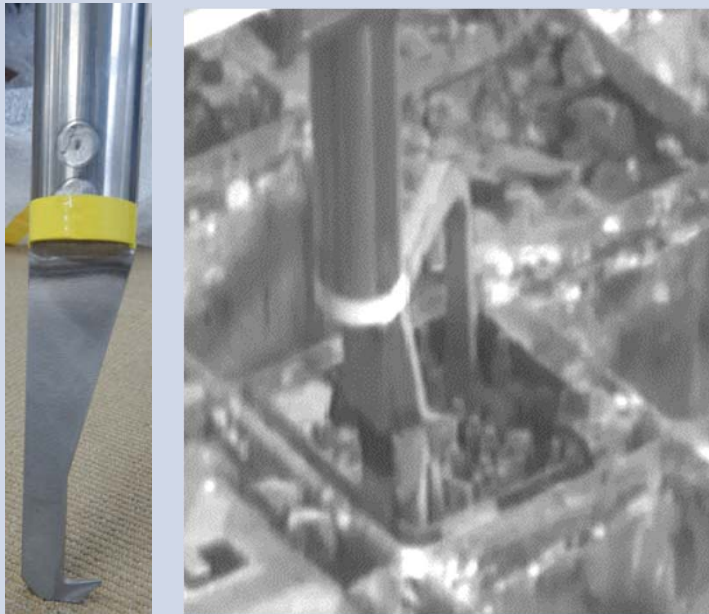
- 2020年6月19日 燃料取り出し作業中に、規定荷重（約1,000kg）以内に吊り上がらなかったもの。
- 手順に従い、あらかじめ選定していた別の燃料にて26回目のキャスクへの燃料装填は完了。
- 当該燃料に変形等の異常は確認されていない。
- ガレキのかじり・固着によるものと推定。



【参考】小ガレキ撤去ツール

カギ型ツール

燃料とラック間の細かいガレキを掻き出す



タガネ型ツール

燃料とラックの隙間に差し込み、クリアランスを少し広げ小ガレキの固着を解消する

